学校番号	3029

令和８年度 学 ＳＳ理数

教科	学 ＳＳ理数	科目	（学）ＳＳ数学Ⅲ	単位数	後期３	年次	２年次
校内名称	数学Ⅱ 数学Ｂ	ユニット数	後期３．０ 後期２．０		必選別	必修	
使用教科書	数学Ⅱ（数研出版），数学Ｂ（数研出版），数学C（数研出版） 数学Ⅲ（数研出版）						
副教材等	４STEP数学Ⅱ＋Ｂ＋Ｃ［数列、統計的な推測、ベクトル］（数研出版） ４STEP数学Ⅲ＋Ｃ［複素数平面、式と曲線］（数研出版） Focus Gold数学Ⅱ（啓林館） Focus Gold数学Ｂ＋Ｃ［ベクトル］（啓林館） Focus Gold数学Ⅲ（啓林館）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

（１）教科書を読み込む予習をする

① 事前に教科書を読みわからないところを明確にしておくことで授業中の集中力が高まる。

② 授業で習ったところをその日のうちに復習する。教科書を再度読み込み自分で自分に説明ができるようにする。

③ 数学では復習が極めて重要である。

（２）問題集を解く

① 問題集は時間をおいて繰り返し解く。

② わからない問題を放置しないこと。まずは参考書で調べ，それでもわからなければ質問して速やかに解決しておく。

③ 計算を軽んじてはいけない。

（３）参考書を活用する

① 参考書によって，答案の書き方を身につける。

② 詳しい解説が載っていることもあるので，普段から参考書を読むことを心掛ける。

（４）問題集・参考書は学校で買ったものを十分に活用する

① いろいろな問題集・参考書に手を出すよりも，一冊に繰り返し取り組み，完全に理解する方が効果的である。

また，数学の問題を解く上で大切なことは「解き方を覚える」のではなく，「自分の持っている知識を使って解いていく」ことである。すぐに解答に頼らず，自分で考える習慣をつけること。

2　学習の到達目標

微積分，数列の極限，関数の極限、いろいろな関数の導関数とその応用、空間ベクトル，複素数平面，について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を目標とする。また，事象を数学的に考察し表現する能力を養い，それらを活用する態度を身につけることを目標とする。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:知識･技能	b:思考･判断･表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。 数学において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学における数学的な見方や考え方を身に付けている。	数学の考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
評価方法	考査 課題レポート 行動観察	考査 課題レポート 行動観察	課題レポート 行動観察

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学習の活動　　校内名称「数学Ⅱ」

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期中間考査まで	関数とその極限	分数関数・無理関数 逆関数・合成関数 数列の極限 無限等比数列 無限級数 関数の極限 三角関数と極限 関数の連続性	a:分数関数や無理関数，合成関数や逆関数の定義や性質，無限級数や無限級数の収束，発散の関係、極限の様子，連続関数の性質について理解している。 b:無限数列や無限級数と収束，発散の関連を考察することができる。分数関数や無理関数について，式とグラフを関連づけて，合成関数や逆関数などの概念を考察することができる。また，関数の連続性について，関数値の極限を用いて考察することができる。合成関数，無理関数を求めることができ，グラフや式を利用して，方程式，不等式を解くことができる。いろいろな関数について，極限の様子を調べ，連続性を調べることができる。 c:分数関数や無理関数や，合成関数，逆関数、無限数列や無限級数の極限になどの概念について関心を持ち，いろいろな事象の考察に活用しようとする。	考査	考査	課題レポート
後期期末考査まで	微分法	微分係数と導関数 導関数の計算 いろいろな関数の導関数 第n次導関数 関数のいろいろな表し方と導関数 接線と法線 平均値の定理 関数の値の変化 関数の最大最小 関数のグラフ 方程式不等式への応用 速度と加速度 近似式	a:微分法の意味，微分可能性と連続性の関係，いろいろな関数の導関数について理解し，導関数と関数の増減の関係を理解している。また，第２次導関数とグラフの凹凸の関係を理解している。 b:微分の定義から，いろいろな関数の導関数を考察することができ，導関数を利用して，関数の増減や，いろいろな事象を考察することができる。また，第２次導関数を利用して，グラフの概形を考察することができる。いろいろな関数の導関数を求めることができ，関数の増減を調べ，最大値・最小値を求めることができる。また，接線の方程式を求めたり，第２次導関数を利用して，グラフの概形を調べたりすることができる。 c:いろいろな関数について微分を考え，グラフやいろいろな事象の考察に活用しようとする。また，第２次導関数を利用して，グラフの凹凸を調べ，グラフの概形について考察しようとする。	考査	考査	課題レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

校内名称「数学Ｂ」

期間	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期中間考査まで	ベクトル	空間の座標 空間のベクトル ベクトルの成分 ベクトルの内積 位置ベクトル ベクトルと図形 座標空間における図形	a:座標を用いた表現や平面・空間のベクトルの演算を利用して図形の性質を表現できる。 b:ベクトルを用いて，平面・空間図形の性質などを考察することができる。図形の考察に座標やベクトルを用いて処理することができる。 c:ベクトルに関心を持ち，それを平面・空間図形の考察に活用しようとする。	考査	考査	課題レポート
後期期末考査まで	複素数平面	複素数平面 複素数の極形式と乗法、除 ド・モアブルの定理 複素数と図形	a:複素数平面の基本的な概念，複素数の演算の図形的な意味，複素数平面上の図形と複素数との関連を理解している。 b:複素数を極形式で表し，図形的な考察ができる。また，平面図形を複素数を利用して考察できる。極形式の演算を図示することができる。また，図形を複素数を用いて表すことができ，複素数で表された等式の図形的な意味を述べることができる。 c:複素数を座標平面上の点に対応させて表示し，事象の考察に活用することができ	考査	考査	課題レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度